

平成28年2月

## 井東朗子 学位論文審査要旨

主 査 千 酌 浩 樹  
副主査 領 家 和 男  
同 景 山 誠 二

### 主論文

In vitro inhibition of cytopathic effect of influenza virus and human immunodeficiency virus by bamboo leaf extract solution and sodium copper chlorophyllin

(クマザサ抽出液と銅クロロフィリンナトリウムによるIn vitroでのインフルエンザウイルスおよびヒト免疫不全ウイルスの細胞変性効果の抑制)

(著者：井東朗子、常城朱乃、吉田優、領家和男、海藤俊行、景山誠二)

平成28年 Yonago Acta medica 掲載予定

### 参考論文

#### 1. 小児の口咽頭および咽頭部穿通性外傷の3例

(著者：奈良井節、小谷勇、土井理恵子、横木智、小川修史、谷尾俊輔、井東朗子、領家和男)

平成25年 口腔顎顔面外傷 12巻 44頁～48頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、自生する植物の一つであるクマザサ抽出物の抗ウイルス活性をインフルエンザウイルスとヒト免疫不全ウイルスについて検討したものである。さらに、その主成分と推定される銅クロロフィリンナトリウムについても同様の解析を行っている。その結果、この植物のエキス、さらにその主成分である銅クロロフィリンナトリウムが、インフルエンザウイルスとヒト免疫不全ウイルスのウイルス増殖を抑制する効果を示した。また、その主要なメカニズムが、ウイルス粒子の細胞への吸着阻止であることを明らかにした。さらに、口腔の消毒に日常的に用いられるポビドンヨードとは抗ウイルス作用機構が異なることを明らかにした。本論文の内容は、クマザサエキスが口腔ケアに応用できる可能性を示唆した点で医療技術向上への貢献が期待できる。明らかに、感染症医療の分野における学術水準を高めたものと認める。